

子ども司書制度

養成・意義・発展

アンドリュー・デュアー

子ども司書とは

子ども司書は、
子供同士の読書のリーダー。
しっかりした養成講座で
司書の仕事、
図書館の仕組み、
魅力的な本の紹介方法などを習って、
学校と図書館と地域で活躍する。

講座を開くことは簡単。

予算はほとんどかからない。

しかし、参加する子供にとって、その講座は
自分の趣味を強く肯定し、
自信をたっぷり与える
かけがえのない経験になる。

その子供は
認定書を握って、
学校、学童クラブ、子供会、街ライブラリー、家庭などで
読書の流行の
起爆剤になる。
本を読むきっかけを作ってくれる。

友だちが読んでいれば、

自分も読みたくなる。

読む友だちの輪が波紋のように広がれば、

多くの子供は波に乗って、読む子になる。

読書の波紋を起こす小石、

それは子ども司書。

子ども司書の誕生

子ども司書制度は福島県の矢祭町で生まれた。
2009年に最初の講座は、
あの有名な「もったいない図書館」で実施された。
当時の矢祭町教育長の高信由美子氏と
家読推進プロジェクト代表の佐川二亮氏は
生みの親。

子供同士の力を活かして
読書への関心を高めるために、
一年近く講習を続けて子ども司書を養成した。
街の関心は大きかった。
新聞報道もあった。
そしたら不思議なことが起こった。

矢祭の講座をまねする子ども司書養成講座は
違う地域で現れ始めた。

最初の講座からの9年目で
講座は全国に広がっている。

数にして、インターネットなどで公表されたものだけで
100か所以上、
実際には200以上と推定。

現在は「子ども司書」という名称以外にも、
「ジュニア司書」とか「小学生読書リーダー」とか
「図書館マスター」とか、いろいろな名称が存在している。
子ども司書推進プロジェクトとしては
特に名称の指定をしていないが、
「子ども司書」は最もわかりやすく、広く知られている名称なので、
勧めている。

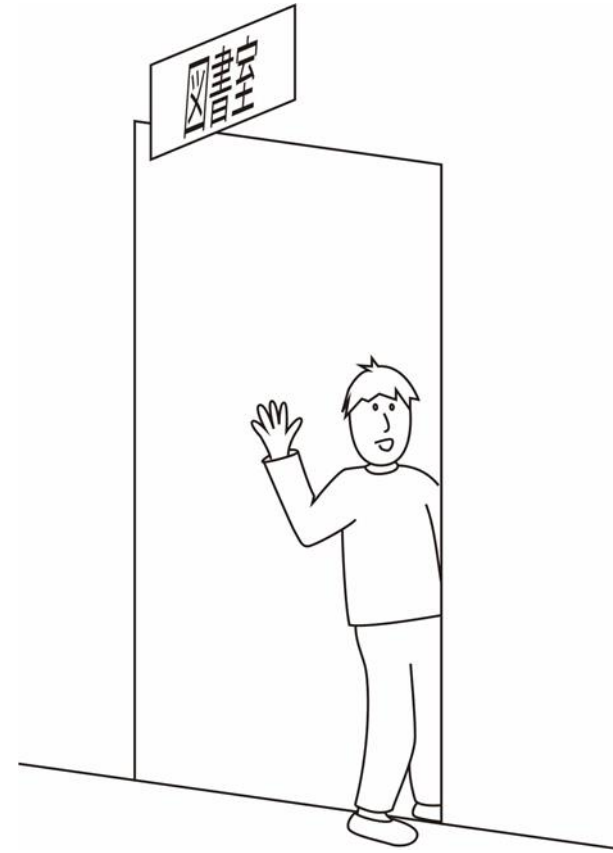
子ども司書制度のねらい

子供が読みたくなるためには、条件は3つある。

- 1) 読む環境があること。
- 2) 読むきっかけがあること。
- 3) 読みたい本に出合うこと。

読みたくなる環境は学校と図書館、そして家庭で作れる。
行きやすい図書館と本のある教室で、
読みたい子供のための時間と場所。
家でテレビのない時間や寝る前の読書タイム。
食卓での会話。家と教室に本棚。
自分だけの図書館カード。
読みたくなったら、本がすぐ手に入る環境は欠かせない。

しかし、
読むきっかけを作ったり、
読みたい本を見つけ出したりするには、
子供同士の力を借りることが
特に効果的。
これが子ども司書制度の目的である。



文化人類学や社会心理学の分野では、
子供の社会化するプロセスの中で、
高学年の年齢にさしかかると
最も影響を受けるのは親や周囲の大人よりも、
自分と同じ年齢の子供たちだと報告されている。
10代の子どもにとって、友だちとの関係は大変重要である。

したがって、親と先生の助言よりも、
友だちの意見と行動が子供の基準となる。
友だちに合わせようとする願望は極めて強い。
友だちの趣味が自分の趣味になりやすい。

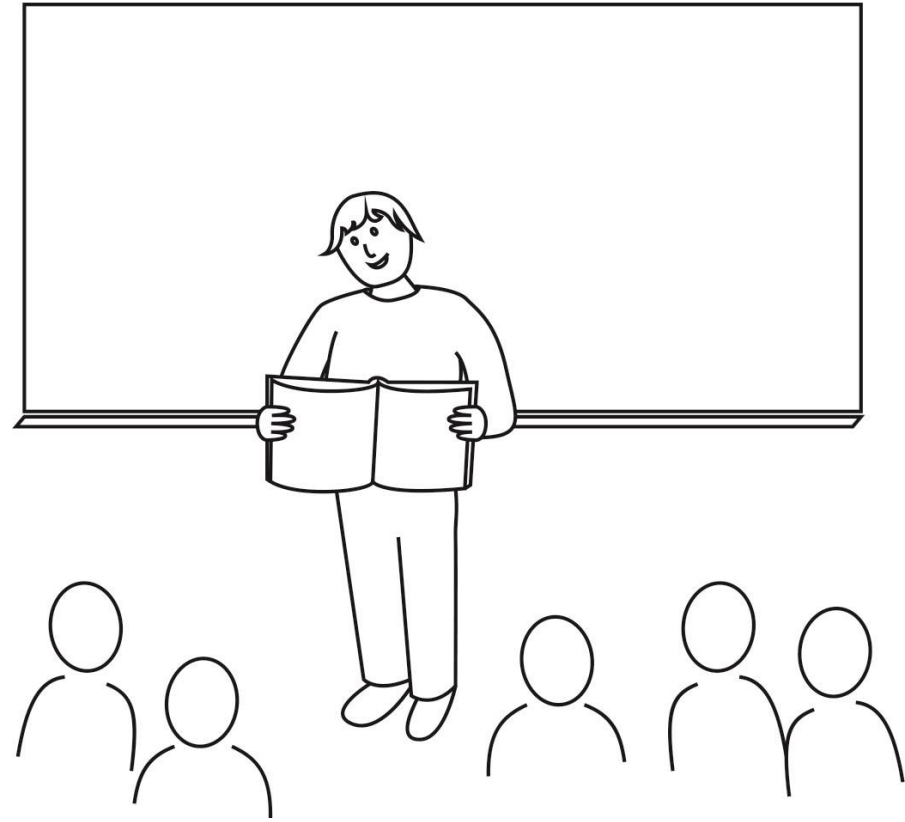
この現象は読書活動のアンケート調査にも表れている。
「高校生の読書に関する意識等調査報告書」* や
「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」* *
のデータによれば、
読みたい本の選択と本を読むきっかけとして、
友だちの影響が保護者と先生と学校司書より大きい。

* (平成26年度文部科学省委託研究)

* * (平成28年度文部科学省委託研究)

高校生の本の選択の要因では、
友だちの推薦を重視している子供は
兄弟、保護者、先生などの推薦を重視する子供より4倍以上いる。
そしてすべての年齢の子供を対象にした調査では、
3分の1以上は本を読むきっかけが友達だったと報告している。
小学生の場合、それは先生と司書が作るきっかけの2倍以上。
中高生では、その差は6～7倍となる。

従来の読書推進活動は
図書館と、学校と、家庭の工夫にかかっている。
これらはもちろん極めて重要であり、
読書環境の整備に欠かせないが、
子供同士の影響力は無視できない
ということが明らかである。
子ども司書制度は、その影響力を活かそうとしている。



養成講座のカリキュラム

子ども司書養成講座では、
具体的に、どんな子供に
どんなことを教えるのか？

子ども司書推進プロジェクトは
小学校高学年と中学生を想定して開講を推進している。
各地では対象の設定はそれぞれだが、
先の子供同士の影響のデータにも見られるように、
小学校4年生から中学校3年生までは
最も影響力があり、理解する能力を持っている。
募集は図書館や学校、校長会、市政だより、ネットなど、様々。

それぞれの講座は一度に
10人から20人を養成しているが、
9年目では、認定を受けた子ども司書の人数は
7000人以上と推定している。

【カリキュラムの時間配分(例)】

- ・図書館の仕組みを理解する 8時間
- ・本を紹介と読み語り方法を学習する 3時間
- ・本の制作過程を体験し学習する 3時間
- ・学校・地域で活動する方法を考える 2時間

計 16時間

次に紹介するのは、
自分で実施している
岐阜市立図書館の講座のカリキュラム。
もちろんそれぞれの講座で独自の工夫を施しているが、
これが基本である。
岐阜の場合、夏休みの初めに4日間の集中講座として
実施しているが、月一回の土曜日などの形式が多い。

1 日目

- 1 オリエンテーション 子ども司書とは？
- 2 図書館の見学・探索
(昼食休憩)
- 3 基礎(図書館と司書とは？読書は何のため？)
- 4 司書の仕事1 カウンター、レファレンス、検索

2日目

1 司書の仕事2 NDCと分類、目録、配架

2 本を分類してみよ！

(昼食休憩)

3 おはなし会の見学と演習

4 手作り絵本の制作(1)

3日目

- 1 インターネットの利用、取材、生涯学習
- 2 手作り絵本の制作(2)
(昼食休憩)
- 3 本づくりとスクラップブック
- 4 司書の仕事(3) ブックトーク

4日目

1 司書の仕事(4) 選書、修理、保存

2 ポップを作ってみよう！

(昼食休憩)

3 「子ども司書」の仕事と活動の展開

4 認定証授与式

この基本のほかに、
俳句の教室 とか
近隣の図書館の見学ツアー とか
選書ツアー など、
多彩な内容を実施している講座もある。

岐阜市の講座の場合、私と図書館のスタッフは
共同で講座を教えている。

司書または学校司書(司書教諭など)が担当することが多いが、
読書ボランティアなども講師になれる。

図書館のスタッフが教えることによって、
立派な職員研修になり、
自分の仕事を再評価するチャンスにもなる。

養成講座を修了した子供には、
認定式で「認定書」が授与される。
保護者や講師も同席すると、達成感がまし、
資格の重みと知名度もあがる。
認定するのは、養成講座の主催者や教育長、首長などである。
約半分は地元の教育長が認定者。
それによって、学校と子ども司書をつないで協働しやすくなる。

分担開講の講座

最近、三重県では

分担開講形式の養成講座も実施されている。

県立図書館が講座のオリエンテーションと基礎を
まとめて教えてから、

各自治体で演習的な部分を実施する。

分担開講では、

より一貫性のある講座ができる。

子供と講師が一度に集まることによって知り合いとなり、
アイデア交換やネットワークができる。

利点が多いことから、実施している県は増えている。

三重県の他に、福岡県、大分県も分担講座を実施している。

子ども司書推進プロジェクト

子ども司書の養成を推進して、
研究と交流を促すために、
子ども司書推進プロジェクトという団体は
2011年から活動を行っている。
代表、副代表、事務局長、顧問という幹部と
一般のメンバーから構成されている。
メンバーのほとんどは各地の実践者である。

その主な活動として、ネットワークづくりと情報交換。
たとえば、全国子ども司書研究大会を
青森県の板柳町(2011年)、
埼玉県の三郷市(2012年)、
東京(2015年)、
そして岐阜県の岐阜市(2017年)で、
今まで4回開催している。

さらに、講座の開講を
検討している図書館などを
助けるために、マニュアル
を2015年に発行した。
改訂した第2版は
2017年の大会で
発表された。

子ども司書 マニュアル

第2版

東海学院大学教授兼附属図書館館長・附属東海第一幼稚園園長

アンドリュー・デュアー 編著



子ども司書推進プロジェクト

2017

子ども司書の活動

子ども司書制度の本当の目標は
講座で認定を受けた子供が
自分で読書推進の活動を行うこと。



このような事例がある。

- ・市立図書館でポップづくり(千葉県・八街市)
- ・夏休みの学級文庫整理(千葉県・八街市)
- ・市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」に参加し、お話を開催(千葉県・八街市)
- ・老人ホームや公民館でのお話会(福島県・矢祭町)
- ・被災地での読み聞かせ会(福島県・矢祭町)

-
- ・「小さな朗読コンサート」に参加(秋田県・羽後町)
 - ・小学校図書館ボランティアで本の修理(佐賀県・武雄市)
 - ・小学校図書館リニューアルの手伝い(佐賀県・武雄市)
 - ・「子ども司書クラブ」(青森県・野辺地町)
 - ・本の福袋(千葉県・八街市)
 - ・ジュニア司書マイスター(千葉県・八街市)
 - ・子ども司書ラジオ(岐阜県・岐阜市)

また、これから期待したい活動として、
街ライブラリー* およびマイクロライブラリーの
お手伝いや運営がある。

* 街ライブラリーはカフェや病院、駅など、人が待ち合う場所で自由に読書するための
文庫のことである

でも、自分の学校で、
図書委員会の活動、
おすすめの図書リストやポップ、ディスプレイなどの作成、
読み聞かせ、朝の読書や調べ学習、
ふれあいタイム、学級活動などにおいて、
リーダーとなることが活動の基本である。
しかし、学校との連携が課題となっている地域はいまだに多い。

さらに、何カ所では、先輩の子ども司書が
講師となって、後輩の養成に加わっている。
その講師は「マイスター」と呼ばれている。
八街市のジュニア司書マイスターは代表的。
子供の目線で教えることができる。
子供同士の手を動かすことが子ども司書制度のみそであれば、
子供の力を活かして養成することが自然な発展。

おわりに

多くの図書館と教育委員会が養成講座を開いているということは、子ども司書の効果と価値に対する理解と期待のあかしである。

そして、子ども司書が数多くの地域でほぼ同じカリキュラムで養成され、認定されているということは、「子ども司書」が制度化されつつあることを意味している。

これからも認定された
子ども司書をもっともっと増やし、
子供同士の特有のパワーを活かし、
子供の読書文化を発展させていきたい。

子ども司書の活動を
紹介する貴重な機会をいただき、
ありがとうございます！

